

船橋市国際交流協会平成26年度第1回総会



船橋市国際交流協会の平成26年度第1回総会が、5月12日(月)に船橋市役所内会議室にて開催された。船橋市の山崎副市長他の来賓を迎え、会員60名余りの出席があった。

田村協会会長冒頭挨拶の要旨：

当協会は1987年に設立され27年目に入った。設立20周年を機に、市が実施していた3事業を受け入れて8つの委員会の構成で活動している。

現在、船橋市では約90の国と地域、およそ11,400人の居住外国人の登録があり、その他いろいろな方を含めるとその2倍以上の方々が住むと推測される。こうした現状から、協会は活動の軸足を外国人との交流から多文化共生に移している。

さらに最近では少子高齢化の進行に伴い、人口減少が深刻な問題になりつつある。政府には平成40年にはかなりの市町村の集約や総人口一億人割れの懸念があるとして、社会活動の維持のためには多数の外国人受け入れの検討が必要との動きもある。

外国人の流入が増えれば、首都圏に近い船橋市は外国人集住地域となる可能性もあり、地域社会はそれに耐える準備を急がなければならない。日本人、外国人の区別なく一体となって共存するいわゆる多文化共生社会の構築が求められ、協会もそうした社会づくり

に一層貢献して行きたい。そのためには市民の皆さんにももっと外国の事を知ってもらうことが大切で、協会では国際理解セミナー、インターナショナルフェスティバル、バス研修、日本語学習支援など幅広い活動に取り組んでいる。これらの活動をさらに発展させて行きたい。会員の皆さんの一層の協力をお願いしたい。

山崎副市長からは、来賓あいさつの中で、今年はデンマーク王国・オーデンセ市との姉妹都市提携25周年にあたり、代表団の受け入れ、記念式典、ホームステイなどの行事を通して協会が行った協力への謝意が述べられた。特に、ホストファミリーと滞在者の別れの場面に出会い、生まれた絆の深さに感銘し草の根交流の必要性を再認識したと力説された。国際理解セミナーからも得るところが多く、市として今後とも国際交流協会への支援を続けて行くとの話があった。

総会では、①平成25年度事業報告、②平成25年度決算報告、③委員会の設置及び廃止、規約改訂、④協会個人会費の改訂、⑤平成26年度事業計画、⑥平成26年度収支予算、⑦役員の承認の7つの議案が上程された。関心の中心は、④の協会個人会費の改訂議案で、質疑のほとんどがこの議案に集中した。

主な質疑に、「協会提案の改善項目は当然として、

市の助成金の増額が先決」、「経費節減他で改善を進め、結果により平成27年度総会への上程が妥当」、「値上げが納得できるような魅力ある協会に」、「財政が苦しいことは知らされていない。提案が性急」、「受益者負担を導入すべき」、「市はなぜ助成金を増やせないのか」、「外国人会員の増加をはかりたいが、会費2000円への増額は困難。学生・家族会員など特別会員制導入が必要」などがあった。

これに対して、協会幹部より、市への働きかけや改善項目への取り組みは積極的に進めること、会費1000円は近隣でも少数であり、事業の質を落とさず運営するためには会費改訂が避けて通れないこと、改訂時期も今年の推移を見た上で改めて決定することなどを条件として、値上げ承認について改めて要請が行われた。採決が行われ、賛成40、反対23の結果となり、

④議案は承認された。

その他、「会員に目の向いたキメの細かい運営を要望する」などの意見もあったが、その他の議案に対して反対意見はなく、議案は原案通り承認された。

会員増強委員会の発足。協会強化の一環として新しい委員会が発足します。この委員会は、協会の喫緊の課題である財政問題に対応すべく、会員の増強を目的とすると共に、魅力ある協会運営を目指して次の活動を行います。①新規個人会員、団体会員の獲得、②既存団体会員の会費口数の増加の依頼、③会費納入状況の把握、入金依頼、④会費納入方法の検討、⑤会員交流のイベントを開催し、協会の魅力への理解をはかる。

尚、ようこそふなばし委員会は解消されました。

広報委員 石原

平成26年度 役員一覧

役 職 (担当)	氏 名
会 長 (会務総括)	田村 泰一
副会長 (会長代理/相談窓口/ 日本語教室/地球っ子)	宮 慶助
副会長 (総務/文化交流)	嘉規 洋
副会長 (広報/会員増強)	荒谷 晃行
副会長 (会員増強/国際理解)	小原 智
事務局長	日野 隆

委員会	委員長
総務委員会	日野 隆
広報委員会	廣田 俊男
文化交流委員会	嘉規 洋
日本語教室委員会	弘瀬 晃
外国人相談窓口委員会	飯塚 妙子
国際理解セミナー委員会	今村 俊一
地球っ子委員会	浦和かほる
会員増強委員会	田邊 厚志

インターナショナルフェスティバル2014

日時:10月26日(日)10:00~15:00(無料開放日)

場所:アンデルセン公園・イベントドーム

船橋市国際交流協会は市民の皆さんに世界の国々をより身近に知って頂くことを目的にインターナショナルフェスティバル2014を開催します。イベント会場では、多くの国々からの民族衣装をまとった歌や踊り、フリーマーケットでの買い物や屋台の外国料理も楽し

めます。また、イベントドームの隣のための広場では子供たちのあそびやゲームもあります。船橋市の姉妹・友好都市のオーデンセ市や西安市を訪れた市民訪問団の様子の写真展示なども行います。

皆さんチョット外国の空気に触れてみませんか。会員の方には、詳細を改めてご案内します。

(駐車料金/500円は各自お支払い下さい。)

実行委員長 宮

東京湾クルーズと潮干狩り

文化交流委員会

5月31日(土)、待ちに待った東京湾クルーズと潮干狩りの日です。幸運にも朝から晴れ。

朝8時に市役所前に集合した参加者40名(うち外国人14名)は、徒歩で船橋港の漁船『大平丸』へ。いよいよ東京湾クルーズの始まりです。

港内ウォーターフロントから三番瀬・貝殻島の見学、そしてディズニ



三番瀬海浜公園の潮干狩り

ランドを海から眺めた後、三番瀬海浜公園で潮干狩りをたっぷり2時間楽しみました。子供たちのみならず大人も嬉々として捕ったあさを網や籠に入れ、再び船で船橋港へ戻りました。

船着き場では漁協の贈場で作られた貝汁が振舞われ、持参の弁当・おにぎりを屋外の昼食会で美味しくいただきました。ホンビノスの貝汁は絶品で、2杯もお替わりする人が出たほどです。

和気合々の7時間があっという間に過ぎ、来年の再会を期しお別れです。

スタッフの皆さま、ご苦労さま、お疲れさまでした。

広報委員 田嶋

「地域における多文化共生」の環境変化

最近、経済のグローバル化、国内の少子高齢化と生産・労働人口の減少懸念などから、社会活動を維持するために外国人の労働力が必要になるとの議論が盛んになされています。そのような社会での地域の活性度は、より多能でより有能な外国人が多く移り住んでくれることに依存すると考えられています。船橋は外国人にとって住みよい場所だとの評判が得られれば、それが一つの宣伝となるでしょう。多文化共生社会の成熟度がそうした評判を左右する社会環境になりつつあるとも考えられます。

船橋市国際交流協会も設立以来、多文化共生に向けた多くの活動を続けています。国際交流協会ニュースでは、これらの活動をこれからシリーズで順次紹介していきます。

地球っ子委員会の活動（子ども日本語教室）

外国人にとって子弟の教育環境は、その子たちの将来の社会参加だけでなく、親たちが日本に定住を決意するかどうかの大きな要素と言われ、地域の多文化共生活動の大きな柱になっています。地球っ子委員会が行っている活動を浦和委員長に聞きました。

一日本に来た時の心持ちや家庭環境など様々な背景を持った子どもたちは、覚え方も発話力も異なります。こうした子どもたちを等しく受け入れる心と、言葉の指導上の工夫が重要になります。

地球っ子は「グループで楽しく助け合う」をモットーに、テキストだけでなく活動から学ぶ方法を多く取り入れています。「これは何ですか。」という文型から始めるのではなく、何かをしながら習います。例えば、折り紙をしながら「半分に・三角に・きちんと折る」「表・裏」「色」「わかった」「できた」「次に」など、学校で使う言葉も同時に学びます。中学生は、通学路の地図を作り、「駅の近く」「公園・コンビニがある」「右へ曲がる、まっすぐ行く、100mくらい」など道順の説明の仕方を学びます。みんなの前で発表することも自信につながる有効な手段です。



こども日本語教室の授業風景

外出もある3日間の夏休み教室は一番の人気です。これまで水電池と小型モーターを作って風車を回したり、ダンゴムシの習性実験をしたり、動物園で動物の写真を撮って写真展を開いたりしました。このような共同作業では「どうして?」「どうやるの?」「これでいい?」「こっちのほうがいいよ」など、日本語力の異なる子どもたちが助け合うための日本語が学べます。

現在幼稚園から中3まで30人の児童を14人のボランティアで支援しています。声が出なかった子が笑ったり話したりできるようになったり、高校に合格して巣立っていくことなどが私たちのやりがいにつながっています。

多言語支援センターについて

災害発生時、外国人は言葉の面から災害弱者となる事例が多く発生しています。地域の多文化共生の新しい政府の指針でも、災害時に日本人向けに提供されると同等の災害関連情報を外国人向けに分かりやすい内容で多言語化し迅速に配信することを求めています。

災害時にこうした機能を果たす「多言語支援センター」の仕組みについて、総務委員会日野委員長に聞きました。

一船橋市は災害時に市災害対策本部を立ち上げ、その中に国際ボランティア班を編成します。

国際交流協会は、そこからの支援要請を受けて、日常の協会活動で専門的に訓練されている要員や言語協力者として指名した担当者でチームを編成し、これが国際ボランティア班と連携して災害情報の翻訳、通訳、窓口相談など多言語コミュニケーションの役割を担当します。

このチームの活動拠点を「多言語支援センター」と呼びます。これらの要員は、災害時外国人支援サポーター、外国人相談窓口員などとして協会の日常活動の中でその技術を高めています。

広報委員 広田

Did you hear? 知ってた?

ふるさと納税 (Furusato-Nozei) If you donate some money to local governments (cities or prefectures) of your choice in Japan, your income and local taxes are partly deducted. The Japanese government calls it Furusato-nozei (tax payment to hometown) system and encourages people to help local towns. In other words, you can choose to pay some more local tax to Funabashi City or some other cities, and reduce your income and local tax.

Many cities give some gifts to the donors. Funabashi City waits for your donation, and offers a clear folder with Funassyi printed on it if you pay ¥5000 or more, and some more gifts if you pay more. For further information, ask Seisakukikaku-ka in the city hall.



自分で選んだ地方自治体に寄附し、確定申告をすることにより所得税と個人住民税が一部控除される。これは「ふるさと納税制度」と呼ばれ、地方の町への寄附を奨励している。つまり、寄附金を船橋市または他の市に払えば、日本政府への所得税を減らせる。寄附を受けた町はお礼をすることが多く、船橋市は5000円以上の寄附には「ふなっしー」のクリアファイルを用意していて、もっと多く寄附すればほかにも何かもらえる。詳しくは、市役所の政策企画課へ。

広報委員 福井

デンマーク王国

海外事情

オーデンセ市環境への取り組み

船橋市とオーデンセ市との姉妹都市提携25周年を記念し、表題の講演会が6月8日(日)に開催された。オーデンセ市役所・産業環境室のストランドゴード氏による環境政策の実例から2, 3を以下で紹介したい。

例えば普段ローラースケートの練習場として使われている施設は、降水量が多い時に雨水をためておく貯水池になるという。雨水はゆっくりと地下水となり、やがて安価で安全な飲料水となる。自転車や公共交通機関を利用しやすい環境を整え、大気汚染を防ぎ、道路の維持・建設コストを削減していることも紹介された。特に、交通弱者と言われる障害者や高齢者向けに電動アシスト自転車を利用されているのは、画期的かつ実用的と感銘を受けた。

同市の環境政策のキーワードは「持続可能性」。今さえよければ、ではなく将来に負担を残さない堅実な取り組みの数々に、さすが環境先進国、との思いを新たにしたい。

広報委員 福岡



お知らせ

国際理解セミナー

今回は船橋市・デンマーク王国オーデンセ市姉妹都市提携25周年事業の一環として「デンマークのお国紹介」を行います。

講師：イエスパー・トムセン公使参事官
日時：9月24日(水) 18:00開場、18:30～
場所：フェイスビル6階 きららホール
お申込み：国際交流協会事務局まで 申込9月1日以降

国際交流協会事務局
TEL：047-436-2083 / FAX：047-436-2089

モザイクワーク 「世界遺産の富士山を壁掛けに」

日時：9月17日(水) 13:00～16:00
場所：船橋市中央公民館
先着14名(申し込みが必要です)
※在日外国人が対象です。
お問い合わせ：047(462)4047 西口晶代まで

2014年避難所宿泊体験について

日時：8月30日(土)～31日(日)
場所：船橋市立芝山中学校
お問い合わせ：国際交流協会事務局まで

あとがき

6月のアメリカ旅行の際の出会い。一人目はジャズピアニストのアメリカ人で、彼の双子のお嬢さんが大学卒業後1か月間日本を旅行して日本を大変気に入って、従妹夫婦も大学で日本語の先生をしているとのこと。他に、日本に観光で3, 4回訪れたことがあるというシンガポール人夫婦と、小学校6年生まで日本の教育を受け、今でも毎年日本旅行をしているという80歳代の台湾の夫婦。皆さん日本に好意を持っているのが分かって喜ばしい。私も外国の良い面を見つけていきたい。(S.N)